

2014年1月24日開催・旭川広葉樹銘木市

右の写真は2014年度の旭川林産のポスターです。右の立木の写真が第372回北海道産広葉樹銘木市に出品された東京大学演習林材のマカバ原木です。この1本の立木は3本にカットされて当日の市に出品されていました。

一番元は長さ1.8メートル直径54センチ。二番玉は長さ4メートル直径56センチ一番末は4メートル直径52センチがこの木の内容です。



NO2534 マカバ 1.8メートル直径54センチ (元の木口は丸腐りです。)この木は腐っているので値段は安いです。

右の写真は2番玉のNO2476 マカバ長さ4メートル直径56センチの旭川林産協同理事長賞が付けられた原木です。お値段は少し安いトヨタ自動車のクラウンが1台買えるお値段です。この原木は大阪の突板業者の方が購入しました。



左の2枚の写真は一番末のNO2472マカバ 長さ4メートル直径52センチの金賞が付けられた原木です。お値段は少し高い軽四自動車を買えるお値段です。購入者は日本一の内装業者(宮内庁・京都迎賓館を手掛けた)さんです。

確かに貴重品になってきているとは言え、超優良材は極一部の木材の関係者以外には手に入らなくなっているのは事実です。ただしこの取り上げた記事だけで皆様に広葉樹原木全体の状況説明にならない事は承知いたしていますが、この記事の内容を知っていると全く知らないのでは、特に建築士さんには大事な情報だと小生は思います。

こういう情報はこういう事を意味していると小生は考えます。坪単価200万以下の建築はマカバ材(日本人の本当に好むサクラ色)は使えない事を意味しているのです。

建築士さんの図面にサクラと書いてある化粧合板は殆どがマカバ材が使われています。しかし安く提供することは無理です。サクラ材とは書かず、ブラックチェリー材と言う様に正しく樹種名を書いた図面を挙げる様にして頂きたいと小生は思います。

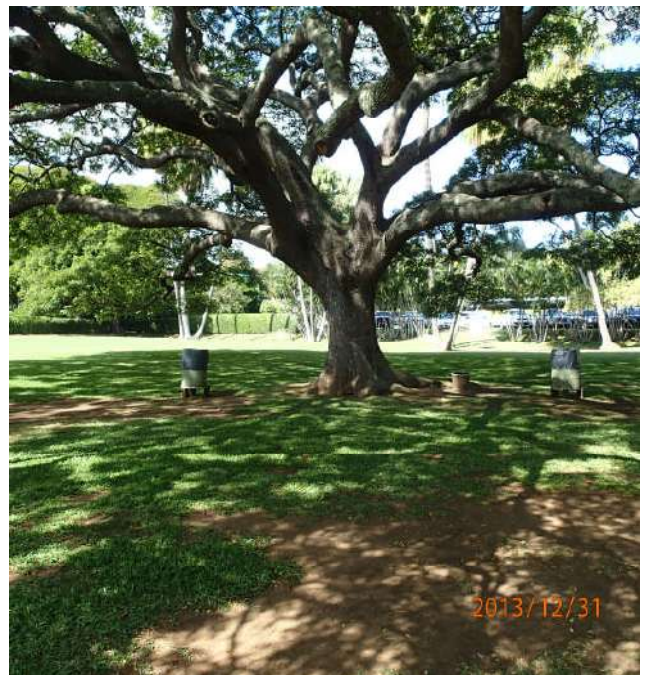
もしこの点(図面を書く前に樹種名が解らない等々)が不明なことが有れば是非服部商店の小生に(具体的全体の予算・施主様の希望・設計のポリシーの等の事の説明もして頂けたら)聞いてください。空振りに終わる設計図面を書く事はエンドユーザーの消費者の方から見れば正しいとは思えません。



日立の木ってどんな木



上の写真はテレビでお馴染みの日立製作所の『あの一木なんの木、気になる』木です。



下段の写真は日立の木の隣の木です。現地の日系の案内人によると樹齢はほぼ同じだと言っていました。130年生だそうです。又この樹種はハワイ固有の樹種ではなく中央アメリカ（熱帯地方）から持ってきたと言っていました。木の大きさは日立の木の方が圧倒的に大きいですが、木の形『木材経済学と言う小生の考え方から考えると』は断然下の木が優秀です。枝下までの長さは大体同じですが、木の形状は下の木の方が丸く育っており余分な枝は出ていません。それに比べて上の木は根から70センチの所で横に大きな枝が出ています。立木の評価は多分下の木が100としたら上の木は50でしょう。

このような話は材木屋に全然関係ないと思われる方がほとんどでしょう。しかしこの2本の木の関係が今我々材木屋の屋台骨の話になるのです。

現在日本国の天然記念物もしくはそれに準ずる扱いを受けている日本の木は上の様な少し形の悪い木です。しかし下の木の方が上の木より使える所が多いために今まで殆ど伐採される傾向になっていました。

小生は伐採を禁止すべきだと主張しているのではなく、森を育てると言う仕事は、その森に生育していく親の木を残すことが後々長く森林が育っていくのです。人工林でも同じ考え方で育ちの悪い形の悪い木から順番に間伐をしています。この考え方こそ正しい森林経済学なのですが、日本国の本当の森林を見た

場合北海道の一部、長野県の一部以外は殆ど親木になる姿形の良い木は切られ姿形の悪い木が残っています。その木が天然記念物等に指定されているのです。

世界中の自然の木を本当に守る為には、そのエリアの中の親木『姿形の良い木』は出来るだけ残して森林を開発することが大切だと思います。良い木の遺伝子を残していく事が必ず木材業界全体の利益に繋がると小生は確信していますし決して間違っていないと思います。

小生は大阪市住之江区に住んでいます。大都会の真ん中ですが日立の木に勝っている木が地元にあります。旧紀州街道沿いにある霰松原にあります。



この大きな木がどういう理由で今まで残ってきたのか詳しい理由は解りませんが、大阪市内にはまだ数か所この様な立派な立木が残ってきている場所があります。そしてその多くはクスノキです。

多分クスノキは他の木に比べて大気汚染に強い性質があると思います。その性質が有るからこそ今まで生きて来られたと思います。

ところで日立の木の正式な名前をご存じの方は材木屋以外では多分少ないと思います。日本名はムクノキと呼びます。学術名は『モンキーポット・レインツリー』と呼びます。

この木の用途は日本では一枚板の巾広材のテーブルトップが主な用途です。

クスノキと比較してどうですかと聞かれた場合、材木屋としてお答え出来る答えはどちらの樹種も使い方が有ります。その使い方を間違いないように使っていただければ良いと思います。とお答えする方が耳触りの良い答えだと思いますが、服部新聞では少し違う答え方をさせて頂きます。木の姿形から見ると日本のクスノキの方がモンキーポットに比べて枝下が圧倒的に長い、そして成長の時間を比べるとモンキーポットは早く育つ傾向に有ると思います。と言う事は目の細かさは日本のクスノキが断然です。

総合評価は、一部の用途以外（テーブルトップ）に使う場合はモンキーポットの方が美しく見えるかもしれませんが、それを除いてもクスノキの方が品質的に断然上品質だと思います。

過去に服部新聞に何度も書きましたが、日本の木の品質はどの樹種も世界一で有ることは間違い有りませんが、現在は今までの乱伐等で優良な木材資源が枯渇しており、日本以外の国の供給がなかったらやっていけない国になってしまったのです。



勉強会のご案内

2014年3月15日午前10時～11時まで約1時間の予定で第13回服部商店勉強会を開催致します。今回はロシア産タモ原木の製材を見て頂きたいと思っておりますがロシア産タモは現在円安・現地の原木価格の大幅な上昇等の状況で原木が凄く集まりにくい状況です。従って当日お見せする製材の樹種変更が有るかもしれません。次の服部新聞第96号で皆様にお知らせ致します。



又当日11時～11時30分の予定で服部商店超高級フローリング『ブラックウォールナット材』のモルダー加工の製造も見ていただこうと企画しています。

左の写真は昨年3月16日に開催した第12回勉強会の様子です。

今回旭川の銘木市にて小生の購入してきた原木の一部写真です。



カツラ



カツラ



カツラ



イチイ



タモ



サクラ



シュリ



ナラ



ホオ



クルミ

写真は一部です。全部で24物件落札してきました。

展示即売会の特典（記念）

3月1日～3月15日の展示会当日の午後3時までに服部商店のホームページに掲載しています全商品を過去にお買い求め頂いた御客様に一律5%割引販売を行います。

日頃お世話になったことを還元したいと思い企画しました。大変申し込みが多い事も予想されますので、早く申し込みされた方を優先しますので別紙で申し込みください。

又当日来社される方に軽食（カップラーメンとお茶）の用意もしたいと思いますので是非記入の上、ご返信下さい。

F A X 0 7 2 - 4 2 2 - 8 5 7 7

2014年3月15日に勉強会・製材部門（AM10時～AM11時）とブラックウォールナットのフローリングの加工（AM11時～11時30分）を行います。

第7回展示即売会（AM8時～PM4時まで。途中勉強会開催中販売を中止します）を合わせて開催します。

アンケート

1、 第13回服部商店勉強会と第7回木材展示即売会に出席します。

はい

いいえ

2、 参加される人数を明記下さい。

人

3、 当日来場出来ない方と遠方の方に（ホームページに掲載しています全商品を5%オフにてご購入して頂けます。）下記に記入の上FAXかメールでこの用紙をご使用してご連絡下さい。

（必ず**勉強会記念**と明記の上樹種・商品番号を明記の上ご連絡下さい）ご注文が重複した場合は申し込みが早い方を優先させていただきます。）

会社名	
参加者名（複数の場合 代表者名前）	
ご住所	
連絡先電話番号	
連絡先FAX番号	

（株）服部商店

服部雅章

〒 596-0011

大阪府岸和田市木材町 16-1

T E L 072-438-0173・0511